



## 第6章 平成24年度科学研究費助成金・基盤研究(S) : 「大規模自然災害時の史料保全論を基礎とした地域 歴史資料学の構築」の研究支援

吉川, 圭太

---

**(Citation)**

歴史文化に基礎をおいた地域社会形成のための自治体等との連携事業, 11(平成24年度事業報告書):45-45

**(Issue Date)**

2013-03-31

**(Resource Type)**

report part

**(Version)**

Version of Record

**(URL)**

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81005274>



博士前期課程)が、御影高校2年生の世界史Bで「ルネサンス文化史とルネサンス以降の文化の変化」について実習授業を行い、同校の地歴科教員の指導と講評を受けた。(文責・河島真)

## 第6章 平成24年度科学研究費助成金・ 基盤研究(S)

### 「大規模自然災害時の史料保全論を基礎とした 地域歴史資料学の構築」の研究支援

2009年4月からスタートした上記テーマの科学研究は、今年度で4年目を迎えた。今年度はこれまで3年間の基礎研究、ならびに東日本大震災に際して進められた歴史資料保全活動から得られた知見を基礎として、新たな地域歴史資料学の構築に向けて各研究を展開し、その成果を論集としてまとめることを進めた。

今年度は、被災地フォーラムを2度開催した。フォーラム「新潟県中越地震から東日本大震災へ―被災歴史資料の保全・活用の新しい方法をさぐる―」(2012年11月10～11日、新潟)では、災害時における地域歴史資料保全のための方法や体制のあり方、中山間部が抱える現状や地域歴史文化の形成について議論がなされた。フォーラム「大規模自然災害に備える―災害に強い地域歴史文化をつくるために―」(2013年3月2日、岡山大学)では、平常時の史料防災の現状と課題を共有し、広域災害から効果的に歴史資料を保全する体制のあり方について議論がなされた。

地域歴史資料学の研究成果としては、主催の研究会を6度開催し、また外部の研究会と共催を1度行った。主催の研究会内容は、第12回地域歴史資料学研究会「地域歴史資料の活用と歴史学」(2012年6月14日、神戸大学)、第13回地域歴史資料学研究会「水損資料救済取り扱いワークショップ」(2012年6月16～17日、敦賀短期大学)、第13回阪神・淡路大震災資料の保存・活用に関する研究会(2013年2月19日、本科研第15回地域歴史資料学研究会を兼ねる、人と防災未来センター)、平成24年度総括研究会(2013年3月3日)、第2回被災地図書館との情報交換会(2013年3月8日、神戸大学)、第16回地域歴史資料学研究会「水に濡れた古文書と壊れた古書の修復ワークショップ」(2013年3月13日、神戸大学)である。共催の研究会は、

第12回阪神・淡路大震災資料の保存・活用に関する研究会(2012年7月2日、主催・地域連携センターほか、本科研第14回地域歴史資料学研究会を兼ねる、神戸大学)である。なお、東日本大震災の発生により計画変更を余儀なくされた、2004年福井水害・2005年台風14号の事例を中心とした大規模水害に関する研究は、上記第13回地域歴史資料学研究会として開催した。

国際的な情報発信として、8月にオーストラリア・ブリスベンで開催されたICA大会に参加し、大規模自然災害時の歴史資料保全活動に関する中間的な研究成果を発表するとともに、ICA関係者と災害アーカイブの世界的展開について協議した。また、キャンベラのオーストラリア国立図書館では、東日本大震災にかかわるウェブ・アーカイブを進めている研究者と協議し、翌年の国際シンポジウムの準備を進めた。

東日本大震災の発生をうけて、本科研では分担者・協力者による被災歴史資料調査・保全(茨城県、長野県栄村などの被災資料)を支援した。また、阪神・淡路大震災や中越地震において蓄積された震災資料論を踏まえ、東日本大震災の震災資料に関する現地調査(宮城県岩沼市など)を行い、各種研究会で関係者などと情報交換し、今後の課題について議論した。

そのほかの研究活動としては、東日本大震災で被害を受けた歴史資料を効果的に保全していくための経験を積み、そこから析出された方法論を研究に反映させていくために、被災歴史資料をとりまく状況についてのデータ収集を継続した。また、市民と協同した地域歴史資料の保全・活用実践事例の調査(おもに兵庫県朝来市)などの研究を展開した。(文責・吉川圭太)

## 第7章 平成22年度～24年度特別研究 「地域歴史遺産保全活用教育研究を基軸とした 地域歴史文化育成支援拠点の整備」事業

人文学研究科では、平成22年度～24年度の3年間、文部科学省より特別経費の交付を受け、本センターを基軸にして、特別研究プロジェクト事業「地域歴史遺産保全活用教育研究を基軸とした地域歴史文化育成支援拠点の整備」を開始させた(そのための専任教員は坂江渉特命准教授・村井良介特命助教の2名のほか、2年目に添田仁特命